

平成24年度 農薬等安全性確保強化実態調査事業
(農薬登録における作物グループ化の検討のための試験委託事業)

試料調製明細書・メロン

(日植防茨城、日植防高知、日植防宮崎)

一般社団法人 日本植物防疫協会

平成24年度 農薬登録における作物グループ化検討試験明細書

(試験期間 24年7月 ～ 24年8月)

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型	①イミノグタジンアルベシル酸塩(ベルグート)水和剤
	②シモキサニル・ファモキサドン(ホライズン)ドライフロアブル
	③メタラキシルM(フォリオゴールド)
	④スピノサド(スピノエース)顆粒水和剤
	⑤シアゾファミド(ランマン)フロアブル
	⑥メパニビリム(フルピカ)フロアブル
	⑦ジフェノコナゾール(スコア)顆粒水和剤
	⑧テブフェンピラド(ピラニカ)EW
	⑨イミベンコナゾール(マネージ)DF
	⑩エトキサゾール(バロック)フロアブル
	⑪アクリナトリン(アーデント)水和剤
	⑫シフルメトフェン(ダニサラバ)フロアブル
	⑬フェンプロパトリン(ロディー)乳剤
	⑭ビフェントリン(テルスター)水和剤
	⑮アセキノシル(カネマイト)フロアブル
(2) 有効成分名及び成分含有率	①イミノグタジンアルベシル酸塩 40%
	②シモキサニル 30%・ファモキサドン 22.5%
	③メタラキシルM 3.3%
	④スピノサド 25%
	⑤シアゾファミド 9.4%
	⑥メパニビリム 40%
	⑦ジフェノコナゾール 10%
	⑧テブフェンピラド 10%
	⑨イミベンコナゾール 30%
	⑩エトキサゾール 10%
	⑪アクリナトリン 3%
	⑫シフルメトフェン 20%
	⑬フェンプロパトリン 10%
	⑭ビフェントリン 2%
	⑮アセキノシル 15%
(3) 被験物質のLot No.	①HOB-298SM
	②SAG019
	③I601
	④SOK-10G
	⑤SIK-04
	⑥T1B02
	⑦SIK1HWG049
	⑧SJD-01G
	⑨HI028
	⑩1521N
	⑪A0F08
	⑫2A90
	⑬NB203
	⑭TIL009
	⑮37174

2. 農作物名	メロン	品種名	クインシー
3. 試験実施機関名	一般社団法人 日本植物防疫協会 茨城研究所		
試験圃場所在地	茨城県牛久市結束町5 3 5 番地		
4. 試験責任者氏名	森田 久孝、小川 和己、宮川直也、後藤直人、小林照二		
5. 土性	砂土・砂壤土・ 壤土 ・埴壤土・埴土 (○を付す)	減水深	— cm/日
6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)	別紙1.に記載		

7. 栽培概要	播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等 被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載す		
露地・施設の別	施設(ビニールハウス)	有袋・無袋の別	—
播種	平成24年3月19日、定植:4月18日		
栽植密度	畝間180cm、株間50cm、2条植え、1本仕立て(立体栽培)、約2222株/10a		

施肥(10a当たり):平成24年4月2日堆肥 2,000kg、4月4日配合594(5-9-4) 60kg、 4月4日苦土重焼燐 28kg、6月8日くみあい尿素複合液肥1号 400倍
その他の管理は、慣行に従った。
収穫適期(適期):7月中旬～7月下旬
9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)
4月23日アノテープ 10㎡/10a、4月26日コッツA1000倍・マトコネフロアブル1000倍、5月14日ハスタ液剤100倍通路散布
5月21日カスミノルトー1000倍・ベストカート水溶剤2000倍、5月28日ロフラル水和剤1000倍・ダコニール1000 1000倍
6月7日ロフラル水和剤1000倍・ダコニール1000 1000倍・モレスタン水和剤3000倍

10. 試験区

(1)1試験区の面積および(株)数

処理区A:29.7㎡(1.8m×5.5m×3畝) 66株、処理区B:29.7㎡(1.8m×5.5m×3畝) 66株
処理区C:29.7㎡(1.8m×5.5m×3畝) 66株、無処理区D:27㎡(1.8m×7.5m×2畝) 64株

(2)施設の場合、面積・容積・高さ

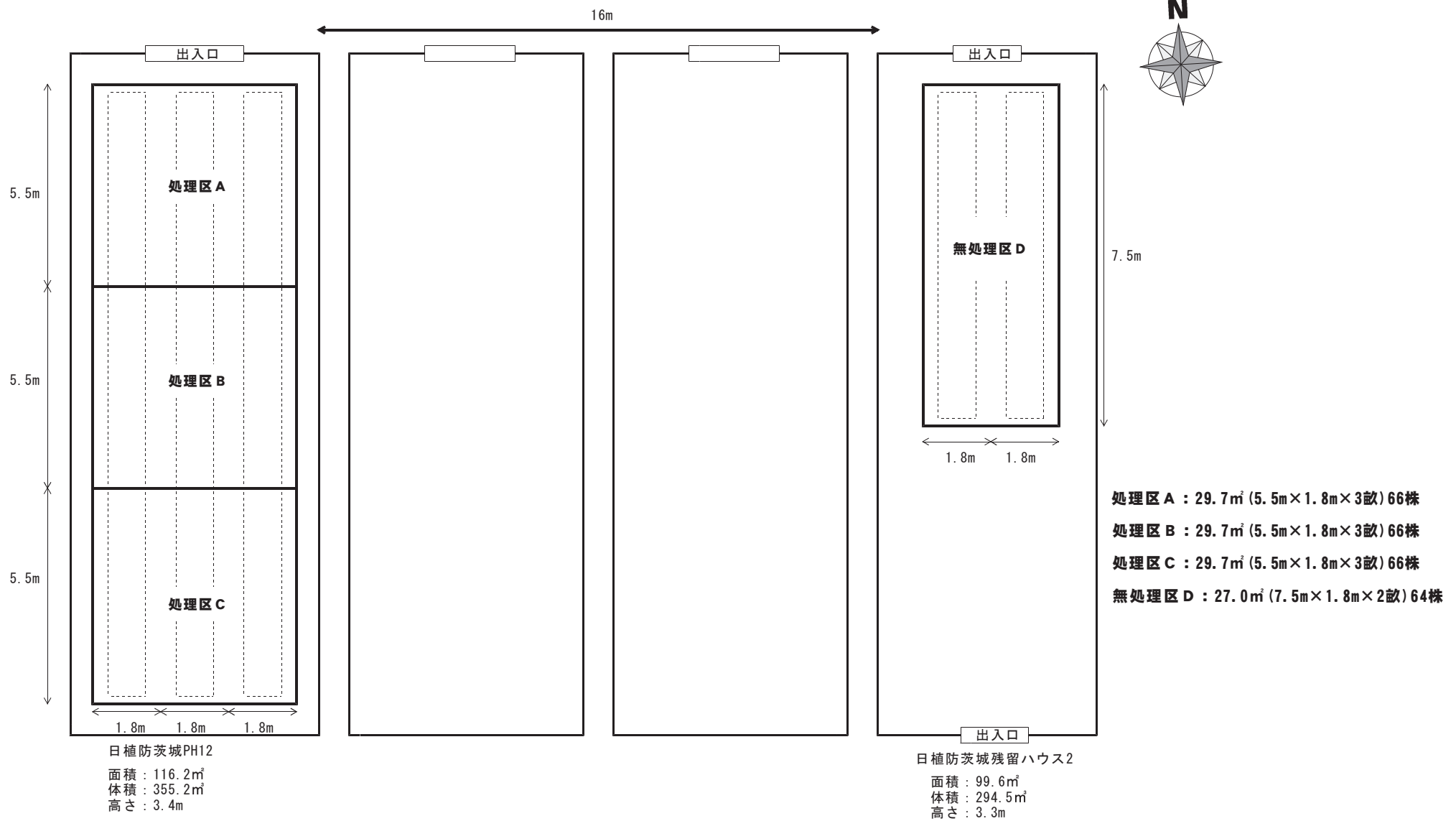
処理区A, B, C	面積:116.2㎡、容積:355.2㎡、高さ:3.4m
無処理区D	面積:99.6㎡、容積:294.5㎡、高さ3.3m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としてもかまいません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育	処理方法（概略）
						10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)	実際に秤量した 農薬量/薬液量	ステージ	
H24年6月19日	ベルクート			無処理	1000倍	283L	8.4g/8.4L/29.7㎡	10.0g/10L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎 葉 散 布
6月26日	ベルクート				1000倍	283L	8.4g/8.4L/29.7㎡	10.0g/10L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
	ランマン				1000倍		8.4ml/8.4L/29.7㎡	10.0ml/10L		
7月 3日	ベルクート				1000倍	283L	8.4g/8.4L/29.7㎡	12.0g/12L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
	ランマン				1000倍		8.4ml/8.4L/29.7㎡	12.0ml/12L		
	ホライズン				2500倍		3.36g/8.4L/29.7㎡	4.8g/12L		
	フオリオ ゴールド				800倍		10.5ml/8.4L/29.7㎡	15.0ml/12L		
7月10日	ベルクート				1000倍	283L	8.4g/8.4L/29.7㎡	12.0g/12L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
	ランマン				1000倍		8.4ml/8.4L/29.7㎡	12.0ml/12L		
	ホライズン				2500倍		3.36g/8.4L/29.7㎡	4.8g/12L		
	フオリオ ゴールド				800倍		10.5ml/8.4L/29.7㎡	15.0ml/12L		
	スピノエース				5000倍		1.68g/8.4L/29.7㎡	2.4g/12L		
7月16日	ベルクート				1000倍	283L	8.4g/8.4L/29.7㎡	12.0g/12L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
	ランマン				1000倍		8.4ml/8.4L/29.7㎡	12.0ml/12L		
	ホライズン				2500倍		3.36g/8.4L/29.7㎡	4.8g/12L		
	フオリオ ゴールド				800倍		10.5ml/8.4L/29.7㎡	15.0ml/12L		
	スピノエース				5000倍		1.68g/8.4L/29.7㎡	2.4g/12L		

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
			特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H24年6月19日	背負式バッテリー動噴（丸山 MSB151）に、縦型2頭口コーンノズル（麻場CPW-21.0）をつけ、6月19日および6月26日は10L、それ以降は12Lを散布機に入れて株全体へ均一に散布した。		時刻 16：50 ～ 17：00	天候：小雨（日中雨時々曇り）、風の影響なし。
6月26日			時刻 16：20 ～ 16：30	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月 3日			時刻 16：00 ～ 16：10	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月10日			時刻 16：55 ～ 17：05	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月16日			時刻 16：20 ～ 16：30	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。

- (1) 展着剤

使用せず

使用した区番号

展着剤名

濃度または量
- (2) 備考

試験薬剤の散布時には、試験区間をポリフィルムで高さ約1.8mまでを遮蔽した。

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育 ステージ	処理方法（概略）
						1 O a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)	実際に秤量した 農薬量/薬液量		
H24年6月26日		フルピカ		無処理	2000倍	283L	4. 2ml/8. 4L/29. 7㎡	5. 0ml/10L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		マネージ			1000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	10. 0g/10L		
7月 3日		フルピカ			2000倍	283L	4. 2ml/8. 4L/29. 7㎡	5. 0ml/10L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		マネージ			1000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	10. 0g/10L		
		ホライズン			2500倍		3. 36g/8. 4L/29. 7㎡	4. 0g/10L		
		スコア			2000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	5. 0g/10L		
7月10日		フルピカ			2000倍	283L	4. 2ml/8. 4L/29. 7㎡	5. 0ml/10L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		マネージ			1000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	10. 0g/10L		
		ホライズン			2500倍		3. 36g/8. 4L/29. 7㎡	4. 0g/10L		
		スコア			2000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	5. 0g/10L		
7月16日		フルピカ			2000倍	283L	4. 2ml/8. 4L/29. 7㎡	5. 0ml/10L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		マネージ			1000倍		8. 4ml/8. 4L/29. 7㎡	10. 0g/10L		
		ホライズン			2500倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	4. 0g/10L		
		スコア			2000倍		3. 36g/8. 4L/29. 7㎡	5. 0g/10L		
		ピラニカ			2000倍		4. 2ml/8. 4L/29. 7㎡	5. 0ml/10L		

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
			特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H24年6月26日	背負式バッテリー動噴（丸山 MSB151）に、縦型2頭ロコーンノズル（麻場CPW-21.0）をつけ、各回10Lを散布機に入れて株全体へ均一に散布した。		時刻 16：20 ～ 16：30	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月 3日			時刻 16：00 ～ 16：10	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月10日			時刻 16：55 ～ 17：05	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月16日			時刻 16：20 ～ 16：30	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。

(1) 展着剤	使用せず	使用した区番号	展着剤名	濃度または量
(2) 備考				
試験薬剤の散布時には、試験区間をポリフィルムで高さ約1.8mまでを遮蔽した。				

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育	処理方法（概略）
						1 0 a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)	実際に秤量した 農薬量/薬液量		
H24年6月19日			アーデント	無処理	750倍	283L	11. 2g/8. 4L/29. 7㎡	12. 0g/9L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布
6月26日			アーデント		750倍	283L	11. 2g/8. 4L/29. 7㎡	12. 0g/9L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
			ロディー		1000倍		8. 4ml/8. 4L/29. 7㎡	9. 0ml/9L		
			テルスター		1000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	9. 0g/9L		
7月3日			アーデント		750倍	283L	11. 2g/8. 4L/29. 7㎡	12. 0g/9L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
			ロディー		1000倍		8. 4ml/8. 4L/29. 7㎡	9. 0ml/9L		
			テルスター		1000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	9. 0g/9L		
7月10日			アーデント		750倍	283L	11. 2g/8. 4L/29. 7㎡	16. 0g/12L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
			ロディー		1000倍		8. 4ml/8. 4L/29. 7㎡	12. 0ml/12L		
			テルスター		1000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	12. 0g/12L		
			パロ ック		2000倍		4. 2ml/8. 4L/29. 7㎡	6. 0ml/12L		
			ダニサラバ		1000倍		8. 4ml/8. 4L/29. 7㎡	12. 0ml/12L		
7月16日			アーデント		750倍	283L	11. 2g/8. 4L/29. 7㎡	16. 0g/12L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
			ロディー		1000倍		8. 4ml/8. 4L/29. 7㎡	12. 0ml/12L		
			テルスター		1000倍		8. 4g/8. 4L/29. 7㎡	12. 0g/12L		
			パロ ック		2000倍		4. 2ml/8. 4L/29. 7㎡	6. 0ml/12L		
			ダニサラバ		1000倍		8. 4ml/8. 4L/29. 7㎡	12. 0ml/12L		
			カネマイト		1000倍		8. 4ml/8. 4L/29. 7㎡	12. 0ml/12L		

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌湿和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
	特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する			
H24年6月19日	背負式バッテリー動噴（丸山 MSB151）に、縦型2頭口コーンノズル（麻場CPW-21.0）をつけ、6月19日、6月26日および7月3日は9L、それ以降は12Lを散布機に入れて株全体へ均一に散布した。		時刻 16：50 ～ 17：00	天候：小雨（日中雨時々曇り）、風の影響なし。
6月26日			時刻 16：20 ～ 16：30	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月 3日			時刻 16：00 ～ 16：10	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月10日			時刻 16：55 ～ 17：05	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月16日			時刻 16：20 ～ 16：30	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。

（１）展着剤 使用せず 使用した区番号 展着剤名 濃度または量

（２）備考

試験薬剤の散布時には、試験区間をポリフィルムで高さ約1.8mまでを遮蔽した。

区 分 採取月日	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	D 区 試料番号	E 区 試料番号	F 区 試料番号	G 区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順（区番号順）	試料送付量	試料送付月日
2012年7月17日	A－1	B－1	C－1	D				D区 時刻：10:45 ～ 10:50 天候：晴れ	D→C→B→A	D ：5個／9.9 kg	7月17日
								C区 時刻：11:05 ～ 11:08 天候：晴れ		C－1：5個／9.5 kg	
								B区 時刻：11:20 ～ 11:23 天候：晴れ		B－1：5個／9.9 kg	
								A区 時刻：11:35 ～ 11:40 天候：晴れ		A－1：5個／9.1 kg	
7月19日	A－2	B－2	C－2					C区 時刻：13:10 ～ 13:13 天候：晴れ	C→B→A	C－2：5個／9.9 kg	7月19日
								B区 時刻：13:20 ～ 13:23 天候：晴れ		B－2：5個／9.4 kg	
								A区 時刻：13:30 ～ 13:33 天候：晴れ		A－2：5個／8.8 kg	
7月23日	A－3	B－3	C－3					C区 時刻：8:25 ～ 8:28 天候：曇り	C→B→A	C－3：5個／10.1 kg	7月23日
								B区 時刻：8:30 ～ 8:33 天候：曇り		B－3：5個／10.1 kg	
								A区 時刻：8:37 ～ 8:40 天候：曇り		A－3：5個／10.1 kg	

区 分 採取月日	送付試料について（該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する）
7月17日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
7月19日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
7月23日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☐ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☐ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☐ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☐ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☐ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☐ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因

（1）試料採取方法

使用した器具（機械）、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

試験区の境界部（南北）を外した全体から大きさの揃った試料を鉋を用いて採取し、その都度清浄なプラスチック製のかごに入れた。

（2）採取後の調製・梱包方法

試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱殻・剥すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

採取した試料は、1個づつ包装紙に包んで段ボール箱に入れ、動かないように包装紙を詰めて箱の内側に試験区ラベル、外側に梱包シールを貼り付けて梱包した。試料番号毎に梱包した。

（3）試料送付先

分析機関： 一般財団法人残留農薬研究所

（4）試料の輸送方法

到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸の冷蔵便で、いずれも到着を送付翌日に指定して送付した。

（5）備考

試験期間中の気象

観測地点および試料調製場所： 茨城県牛久市結束町535番地 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所 (PH12)

観測条件： 気温:平均気温(1 時間毎)

(24年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6	施設内気温 (°C)																			23.4	28.4	25.0	21.2	24.2	25.0	18.0	21.7	23.1	24.9	26.0	25.6	
7	施設内気温 (°C)	24.4	23.9	26.2	27.5	27.5	26.4	24.0	25.4	25.3	28.8	28.9	27.2	27.6	30.2	30.7	30.6	31.0	31.0	29.5	19.5	22.5	21.6	26.7								

別紙1.

■過去 1 年間に作付けした作物および使用した農薬

PH12 (処理区A, B, C)

トマト:平成23年 7月21日キルパー液剤 50倍 60L/10a チューブ灌水

メロン:平成23年 8月16日ネマキック粒剤 20kg/10a 土壌全面混和处理
8月24日ダコニール1000 1000倍・フルピカフロアブル 2000倍
8月29日ダコニール1000 1000倍・アドマイヤー顆粒水和剤 10000倍
9月 2日アフファーム乳剤 2000倍・フルピカフロアブル 2000倍・ブリザード水和剤 2000倍
9月 9日ロブラール水和剤 1000倍・アフファーム乳剤 2000倍
9月14日アミスターオブティフロアブル 1000倍
9月25日モレスタン水和剤 3000倍・アミスターオブティフロアブル 1000倍
9月28日バスタ液剤 100倍 通路散布
9月30日アドマイヤー水和剤 2000倍・モレスタン水和剤 2000倍・スピノエース顆粒水和剤 5000倍
10月 2日アوبا液剤 4000倍 2L/m²灌注
10月17日, 24日, 31日モスピラン水溶剤 2000倍・アフェットフロアブル 2000倍・サンマイトフロアブル 1000倍
10月21日ベストガード水溶剤 1000倍・粘着くん液剤 100倍・アミスターオブティフロアブル 1000倍
10月28日コロマイト乳剤 1000倍・ゴッツA 1000倍・粘着くん液剤 100倍

無栽培:平成24年 3月16日テロン92 20L/10a 土壌全面点注処理

残留ハウス2 (無処理区D)

無栽培:平成24年 3月16日テロン92 20L/10a 土壌全面点注処理

別紙3. 試験風景

写真1. ハウス全景(処理区)



写真2. ハウス全景(無処理区)



写真3. 散布状況



写真4. A区第1回目散布時の果実の大きさ



写真5. A区第2回目散布時の果実の大きさ



写真6. A区第3回目散布時の果実の大きさ



(H24グループ化:メロン)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

写真7. A区第4回目散布時の果実の大きさ



写真8. A区第5回目散布時の果実の大きさ



写真9. B区第1回目散布時の果実の大きさ



写真10. B区第2回目散布時の果実の大きさ



写真11. B区第3回目散布時の果実の大きさ



写真12. B区第4回目散布時の果実の大きさ



(H24グループ化:メロン)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

写真13. C区第1回目散布時の果実の大きさ



写真14. C区第2回目散布時の果実の大きさ



写真15. C区第3回目散布時の果実の大きさ



写真16. C区第4回目散布時の果実の大きさ



写真17. C区第5回目散布時の果実の大きさ



写真18. 試料採集状況1



写真19. 試料採集状況2



写真20. 無処理区Dの試料の果実の大きさ



写真21. 処理区A 1日後の試料の果実の大きさ



写真22. 処理区A 3日後の試料の果実の大きさ

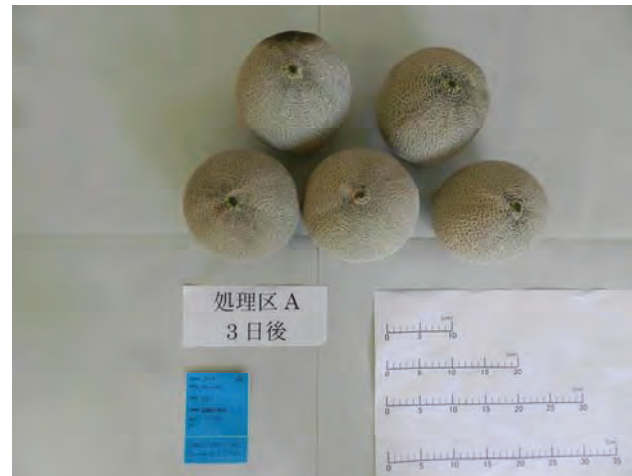


写真23. 処理区A 7日後の試料の果実の大きさ



(H24グループ化:メロン)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

写真24. 処理区B 1日後の試料の果実の大きさ

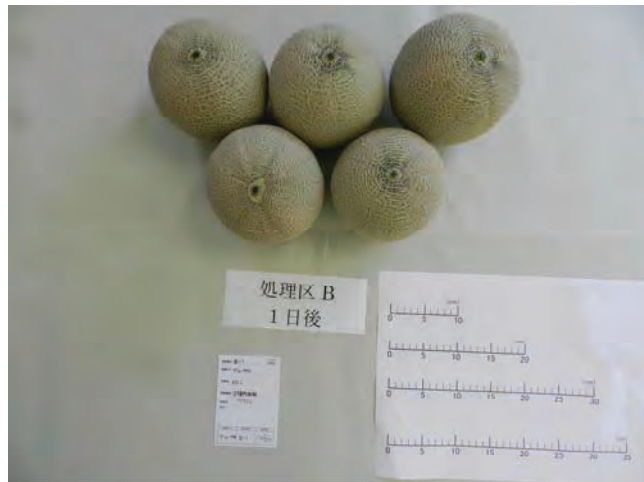


写真25. 処理区B 3日後の試料の果実の大きさ



写真26. 処理区B 7日後の試料の果実の大きさ



写真27. 処理区C 1日後の試料の果実の大きさ

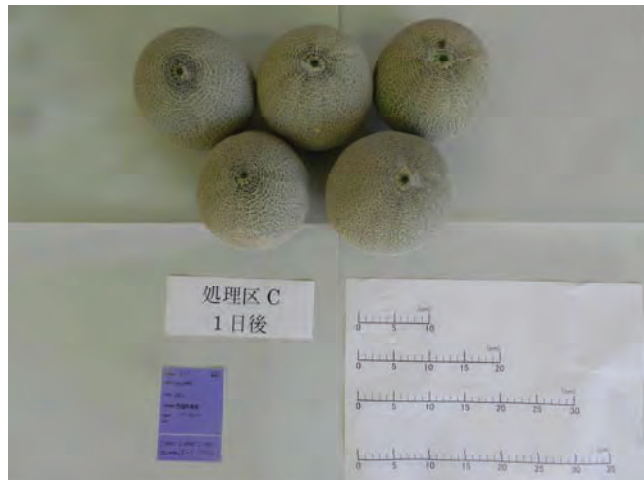
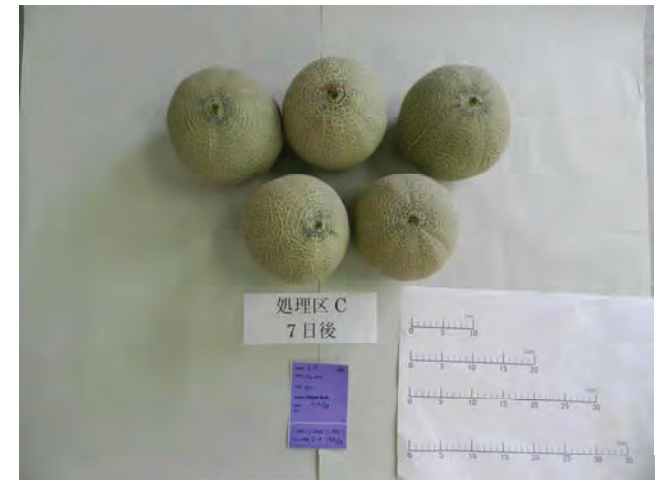


写真28. 処理区C 3日後の試料の果実の大きさ



写真29. 処理区C 7日後の試料の果実の大きさ



平成24年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 24年 7月 ～ 24年 8月)

1. 被験物質 (処理区A)

- (1) 一般名・剤型 ①イミノクダジナルベシル酸塩(ヘルコート水和剤), ②シモキセル(ホタイン®トライプロアブル), ③メダキシLM(フォリオコート®), ④スピノサト(スピノエース顆粒水和剤), ⑤シアゾファミト(ランマンプロアブル)。
(2) 有効成分名及び成分含有率 ①イミノクダジナルベシル酸塩 40.0%, ②シモキセル 30.0%, ③メダキシLM 3.3%, ④スピノサト 25.0%, ⑤シアゾファミト 9.4%。
(3) 被験物質のLot No. ①HOB-298SM, ②SAG019, ③1601, ④SOK-10G, ⑤SIK-04。

被験物質 (処理区B)

- (1) 一般名・剤型 ⑥メバニピリム(フルビカプロアブル), ⑦シフェノコゾール(スコア顆粒水和剤), ⑧ファモキサトニ(ホタイン®トライプロアブル), ⑨テフフェンビラト(ビラニカEW), ⑩イミベンコゾール(マネージ®DF)。
(2) 有効成分名及び成分含有率 ⑥メバニピリム 40.0%, ⑦シフェノコゾール 10.0%, ⑧ファモキサトニ 22.5%, ⑨テフフェンビラト 10.0%, ⑩イミベンコゾール 30.0%。
(3) 被験物質のLot No. ⑥T1B02, ⑦SIK1HWG049, ⑧SAG019, ⑨SJD-01G, ⑩HI028。

被験物質 (処理区C)

- (1) 一般名・剤型 ⑪エトキサゾール(ハロックプロアブル), ⑫アクリナトリン(アーデント水和剤), ⑬シフルメトフェン(タニサハプロアブル), ⑭フェンプロパトリン(ロティー乳剤), ⑮ビフェントリン(テルスター水和剤), ⑯アセキノシル(カネマイトプロアブル)。
(2) 有効成分名及び成分含有率 ⑪エトキサゾール 10.0%, ⑫アクリナトリン 3.0%, ⑬シフルメトフェン 20.0%, ⑭フェンプロパトリン 10.0%, ⑮ビフェントリン 2.0%, ⑯アセキノシル 15.0%。
(3) 被験物質のLot No. ⑪1521N, ⑫A0F08, ⑬2A90, ⑭NB203, ⑮TIL009, ⑯37174。

2. 農作物名 メロン 品種名 雅夏2006

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

試験圃場所在地 高知県香南市野市町深淵本田1211

4. 試験責任者氏名 松村 栄一、内藤 寛、沼田原 誠克、森 克彦、川北 充彦、谷山 頼清

5. 土性 処理区：埴壤土, 無処理区：壤土 減水深 — cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載する

露地・施設の別 施設栽培 有袋・無袋の別 —

播種：平成24年4月21日, 定植：5月11日, 畝幅：120cm, 株間：40cm, 1条植,

約2100株/10a, 施肥：平成24年5月10日 苦土石灰 50kg/10a (処理区A,B,C),

苦土石灰 150kg/10a (無処理区D), マルチ栽培, その他管理は慣行に従った。

人工交配：6月8日～6月12日。

収穫期間(適期)：平成24年8月上旬

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージ — を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

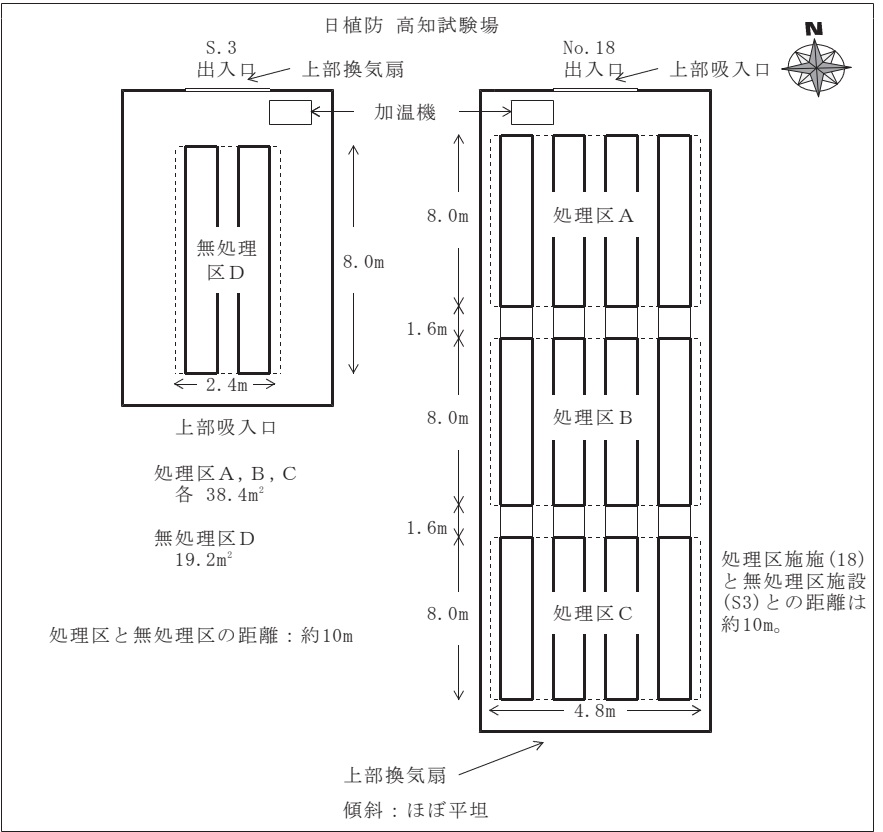
別紙に記載。

10. 試験区

- (1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A, B, C : 38.4m², 80株
無処理区D : 19.2m², 40株
(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 処理区施設 : 面積：162m², 容積：434m³, 高さ：3.0m
無処理区施設 : 面積：64.8m², 容積：174m³, 高さ：3.0m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

- ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。
イ) 試験区間および試験区と無処理区との距離を記入して下さい。
ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



1 1. 処理方法 (下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処 理 濃 度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
							1 0 a当	試験区当 (農薬量/散布量/面積)		
H24年 7月 3日	①			無処理		①1000倍	2 8 1 L	①10. 8g / 10. 8L / 38. 4㎡	ネット形成期	茎葉散布
7月 1 0日	①, ⑤					①1000倍, ⑤1000倍,	2 8 1 L	①10. 8g, ⑤10. 8mL /10. 8L/38. 4㎡	成熟期	茎葉散布
7月 1 7日	①, ②, ③, ⑤					①1000倍, ②2500倍, ③ 800倍, ⑤1000倍	2 8 1 L	①10. 8g, ②4. 32g, ③13. 5mL, ⑤10. 8mL /10. 8L/38. 4㎡	成熟期	茎葉散布
7月 2 4日	①, ②, ③, ④, ⑤					①1000倍, ②2500倍, ③800倍, ④5000倍, ⑤1000倍	2 8 1 L	①10. 8g, ②4. 32g, ③13. 5mL, ④2. 16g, /10. 8L/38. 4㎡ ⑤10. 8mL	成熟期	茎葉散布
7月 3 0日	①, ②, ③, ④, ⑤					①1000倍, ②2500倍, ③800倍, ④5000倍, ⑤1000倍	2 8 1 L	①10. 8g, ②4. 32g, ③13. 5mL, ④2. 16g, /10. 8L/38. 4㎡ ⑤10. 8mL	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	①: イミノクサシ [®] ナルベ [®] シル酸塩 (ヘルクト水和剤) ②: シモキサニル (ホライス [®] ント [®] ライフロア [®] ブル) ③: メタラキシルM (フォリオゴ [®] ールト [®]) ④: スピ [®] ノサト [®] (スピ [®] ノエース顆粒水和剤) ⑤: シアゾ [®] ファミト [®] (ランマンフロア [®] ブル)									
月 日										
月 日										
月 日										
月 日										

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況		
		特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する		
H24年 7月 3日	処理時の使用器具 (機械)、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等 背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコソノス [®] ル1 頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻 ; 16 : 20	処理時の天候 : 曇	当日の天候 : 雨後曇
7月 1 0日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコソノス [®] ル1 頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻 ; 16 : 45	処理時の天候 : 晴れ	当日の天候 : 晴れ
7月 1 7日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコソノス [®] ル1 頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻 ; 17 : 10	処理時の天候 : 晴れ	当日の天候 : 晴れ
7月 2 4日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコソノス [®] ル1 頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻 ; 17 : 00	処理時の天候 : 晴れ	当日の天候 : 曇
7月 3 0日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコソノス [®] ル1 頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻 ; 17 : 15	処理時の天候 : 晴れ	当日の天候 : 晴れ
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 ー

1 1. 処理方法 (下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処 理 濃 度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
							1 0 a当	試験区当 (農薬量/散布量/面積)		
H24年 7月10日		⑥, ⑩		無処理		⑥2000倍, ⑩2000倍,	2 8 1 L	⑥5.4mL, ⑩5.4g /10.8L/38.4m ²	成熟期	茎葉散布
7月17日		⑥, ⑦, ⑧, ⑩				⑥2000倍, ⑦2000倍, ⑧2500倍, ⑩2000倍	2 8 1 L	⑥5.4mL, ⑦5.4g, ⑧4.32g, ⑩5.4g /10.8L/38.4m ²	成熟期	茎葉散布
7月24日		⑥, ⑦, ⑧, ⑩				⑥2000倍, ⑦2000倍, ⑧2500倍, ⑩2000倍	2 8 1 L	⑥5.4mL, ⑦5.4g, ⑧4.32g, ⑩5.4g /10.8L/38.4m ²	成熟期	茎葉散布
7月30日		⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩				⑥2000倍, ⑦2000倍, ⑧2500倍, ⑨2000倍, ⑩2000倍	2 8 1 L	⑥5.4mL, ⑦5.4g, ⑧4.32g, ⑨5.4mL, ⑩5.4g /10.8L/38.4m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	⑥: メバニピリム (フルビカフロアブル) ⑦: シフェノコナゾール (スコア顆粒水和剤) ⑧: ファモキサトロン (ホライズントライフロアブル) ⑨: テフフェンピラト (ピラニカEW) ⑩: イミベンコナゾール (マネジDF)									
月 日										
月 日										
月 日										
月 日										
月 日										

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具 (機械)、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等			処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況		
		特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する					
H24年 7月10日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコンソノール1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 16:45			処理時の天候: 晴れ	当日の天候: 晴れ	
7月17日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコンソノール1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 17:10			処理時の天候: 晴れ	当日の天候: 晴れ	
7月24日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコンソノール1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 17:00			処理時の天候: 晴れ	当日の天候: 曇	
7月30日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカコンソノール1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 17:15			処理時の天候: 晴れ	当日の天候: 晴れ	
月 日							
月 日							
月 日							
月 日							
月 日							
月 日							

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 ー

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

1 1. 処理方法（下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する）

[illegible]

区分 処理月日	処理方法の詳細、	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況		
	処理時の環境条件等	特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する		
H24年 7月 3日	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 背負式バッテリー噴霧機（丸山製作所 MSB111-A）にキョウカクコンソズ®1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻；16：20	処理時の天候：曇	当日の天候：雨後曇
7月10日	背負式バッテリー噴霧機（丸山製作所 MSB111-A）にキョウカクコンソズ®1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻；16：45	処理時の天候：晴れ	当日の天候：晴れ
7月17日	背負式バッテリー噴霧機（丸山製作所 MSB111-A）にキョウカクコンソズ®1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻；17：10	処理時の天候：晴れ	当日の天候：晴れ
7月24日	背負式バッテリー噴霧機（丸山製作所 MSB111-A）にキョウカクコンソズ®1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻；17：00	処理時の天候：晴れ	当日の天候：曇
7月30日	背負式バッテリー噴霧機（丸山製作所 MSB111-A）にキョウカクコンソズ®1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻；17：15	処理時の天候：晴れ	当日の天候：晴れ
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 一

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式) に記入したものを記載する)

区 分 採取月日	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	D 区 試料番号	E 区 試料番号	F 区 試料番号	G 区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
H24. 7月31日	A-1	B-1	C-1	D (無処理)				採取 A; 9:30 ~ 9:40 B; 9:50 ~ 10:00 C; 10:10 ~ 10:20 D; 9:10 ~ 9:20 天候: 晴れ	D → A → B → C	A区: 6個(9.9kg) B区: 6個(10.3kg) C区: 6個(10.0kg) D区: 10個(17.2kg) × 1分析	7月31日
8月2日	A-2	B-2	C-2					採取 A; 9:20 ~ 9:30 B; 9:40 ~ 9:50 C; 10:00 ~ 10:10 天候: 晴れ	A → B → C	A区: 6個(10.1kg) B区: 6個(10.3kg) C区: 6個(10.3kg) × 1分析	8月2日
8月6日	A-3	B-3	C-3					採取 A; 9:10 ~ 9:20 B; 9:30 ~ 9:40 C; 9:50 ~ 10:00 天候: 晴れ	A → B → C	A区: 6個(10.3kg) B区: 6個(10.3kg) C区: 6個(10.2kg) × 1分析	8月6日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日

区 分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
H24. 7月31日	1. 試料の大きさは(やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い ☒ 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
8月2日	1. 試料の大きさは(やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い ☒ 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
8月6日	1. 試料の大きさは(やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い ☒ 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因

- (1) 試料採取方法 使用した器具(機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

処理区および無処理区試料は、試験区の境界部を除く試験区全体から鋏を用いて採取した。

採取した試料は、直ちに採取用カゴに入れた。そして場内の試料調製室まで自動車で運んだ。

- (2) 採取後の調製・梱包方法 試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱穀・脱すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

ダンボール箱に包装紙を敷き、破損防止のため底にエアークッションを敷いた。果実を個別に包装紙で包んだ後、ダンボール箱に並べて入れ梱包した。

また緩衝材として包装紙を使用した。ダンボール箱の内側には試験区ラベルを、外側には梱包シールを貼り付けた。

試験区ごと別々に梱包した。

- (3) 試料送付先 分析機関: 一般財団法人 残留農薬研究所

- (4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

到着日を送付翌日に指定し、ヤマト運輸株式会社の冷蔵便で送付した。

- (5) 備考 -

(2 4ーグループ化 (高知) メロン)

6．過去 1 年間に作付けした作物および使用した農薬

処理区に使用した施設

平成23年秋冬作：にら

平成23年. 7/12 ホスチアゼート(ネマトリンエース)粒剤 20kg/10a,
7/12 プロチオホス(トクチオン)細粒剤F 9kg/10a,
7/12 イミシアホス(ネマキック)粒剤 20kg/10a,
9/12 スピノエース顆粒水和剤 10000倍 散布,
10/4 プロチオホス(トクチオン)乳剤 2000倍 灌注,
10/7 スピノエース顆粒水和剤 10000倍, ストロビートフロアブル 2000倍 散布,
10/20 ホスチアゼート(カートホープ)液剤 3000倍 灌注,
10/26 タントツ水溶剤 2000倍 散布,
11/10 スピノエース顆粒水和剤 10000倍, ストロビートフロアブル 2000倍 散布,
11/25 オンコルマイクログラセル 2000倍 散布,
12/9 スピノエース顆粒水和剤 10000倍, ストロビートフロアブル 3000倍 散布。

無処理区に使用した施設

平成23年秋冬作：トマト

平成23年. 12/9 ゲッター水和剤 1500倍, ランマンフロアブル 2000倍, プレオフロアブル 1000倍 散布,
12/14 プリザート水和剤 1200倍, スタークル顆粒水溶剤 2000倍 散布,
12/27 プリザート水和剤 1200倍, トリフミン水和剤 3000倍 散布,
平成24年. 1/12 プリザート水和剤 1200倍, トリフミン水和剤 3000倍 散布,
1/27 モスビラン水溶剤 2000倍, サンマイトフロアブル 1000倍, カンタストライフロアブル 1000倍 散布。

9．被験物質以外に使用した農薬

平成24年. 5/3 ダコニール1000 1000倍, アトマイヤー顆粒水和剤 5000倍 散布 (育苗期),
5/24 ダコニール1000 1000倍, スタークル顆粒水溶剤 2000倍 散布,
6/6 カンタストライフロアブル 1000倍, アトマイヤーフロアブル 4000倍 散布,
6/14 アファーム乳剤 1000倍, モレスタン水和剤 3000倍, スタークル顆粒水溶剤 2000倍 散布,
7/4 ホリオンAL水溶剤 50倍 塗布,
7/25 プレオフロアブル 1000倍, スタークル顆粒水溶剤 2000倍 散布。

(24グループ化(高知)メロン)

気 象 表

観測地点および試料調製場所：高知県香南市野市町深淵 日本植物防疫協会 高知試験場

気温：平均気温 (1 時間毎) 降水量：日界 時

記号；○：薬剤処理日
△：試料採取日

(24年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7	気温（施設内温度）			25.9	27.5	28.0	27.4	28.4	28.1	28.2	28.4	26.4	27.0	26.7	27.3	28.8	30.1	30.9	30.8	29.6	27.8	29.7	28.1	29.2	30.3	30.7	29.9	29.7	30.4	31.3	31.0	31.2
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取			○							○							○							○						○	△
	区記号（試料番号）			A, C							A, B, C							A, B, C							A, B, C						A, B, C	A-1, B-1, C-1, D
8	気温（施設内温度）	29.0	29.7	30.3	29.9	29.8	30.5																									
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取		△				△																									
	区記号（試料番号）		A-2, B-2, C-2				A-3, B-3, C-3																									
	気温（施設内温度）																															
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取																															
	区記号（試料番号）																															
	気温（施設内温度）																															
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取																															
	区記号（試料番号）																															
	気温（施設内温度）																															
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取																															
	区記号（試料番号）																															

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。
また薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (試験区ハールと同様の番号) を当該欄へ記入する。
施設内気温測定には、テークカー (株式会社 ティアント・デイ おんどとりTR-71Ui) を使用した。

別紙1 試験風景

写真1. 無処理区全景



写真2. 処理区全景



写真3. 処理1回目



写真3. 処理2回目



写真4. 処理3回目



写真5. 処理4回目



写真6. 処理5回目



※採取時の大きさを撮影しなかったためデータが欠落

平成 24 年度 農業作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 24年 6月 ～ 24年 7月)

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型

①イミノタジンアルベシル酸塩(ヘルケート)水和剤, ②シモキサニル(ホライズン)ドライフロアブル,
③メタキシLM(フォリオコート), ④スビノサド(スビノエース)顆粒水和剤,
⑤シアザファミド(ランマン)フロアブル, ⑥メハニビリム(フルビカ)フロアブル,
⑦シフェノコナゾール(スコア)顆粒水和剤, ⑧ファミキサトニン(ホライズン)ドライフロアブル,
⑨テブフェンピラト(ビラニカ)EW, ⑩イメベンコナゾール(マネージ)DF,
⑪エトキサゾール(ハロック)フロアブル, ⑫アクリナトリン(アーデント)水和剤,
⑬シフルメトフェン(タニサハバ)フロアブル, ⑭フェンプロパトリン(ロディー)乳剤,
⑮ビフェントリン(テルスター)水和剤, ⑯アセキシル(カネマイト)フロアブル

(2) 有効成分名及び成分含有率

①イミノタジンアルベシル酸塩 40.0%, ②シモキサニル 30.0%, ③メタキシLM 3.3%,
④スビノサド 25.0%, ⑤シアザファミド 9.4%, ⑥メハニビリム 40.0%,
⑦シフェノコナゾール 10.0%, ⑧ファミキサトニン 22.5%, ⑨テブフェンピラト 10.0%,
⑩イメベンコナゾール 30.0%, ⑪エトキサゾール 10.0%, ⑫アクリナトリン 3.0%,
⑬シフルメトフェン 20.0%, ⑭フェンプロパトリン 10.0%, ⑮ビフェントリン 2.0%, ⑯アセキシル 15.0%

(3) 被験物質の Lot No.

①H0B-298SM, ②SAG019, ③1601, ④S0K-10G, ⑤SIK-04, ⑥T1B02,
⑦SIK1HWG049, ⑧SAG019, ⑨SJD-01G, ⑩HI028, ⑪1521N, ⑫A0F08,
⑬2A90, ⑭NB203, ⑮TIL009, ⑯37174

2. 農作物名 メロン

品種名 アールスセイヌ春Ⅱ

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場

試験圃場所在地 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 試験場内圃場

4. 試験責任者氏名 櫻井昭寿、日高正浩、舟木勇樹、福本義人、和田倉誠也

5. 土性 砂壤土 減水深 cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物及び使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙とした。

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載する

<施設> 無袋

播種:平成24年3月29日 定植:平成24年4月24日 畝間:1.35m 株間:0.45m 1条植

栽植本数(10aあたり):1,600株 透明マルチ 圃場は概ね平坦

施肥(10aあたり):<元肥>12/4/10 有機配合888号(8-8-8) 94kg CDU複合燐加安特S222(12-12-12) 63kg

交配:5/11～5/17

収穫期間(適期) : 7/上旬～

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージを記入下さい

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙とした。

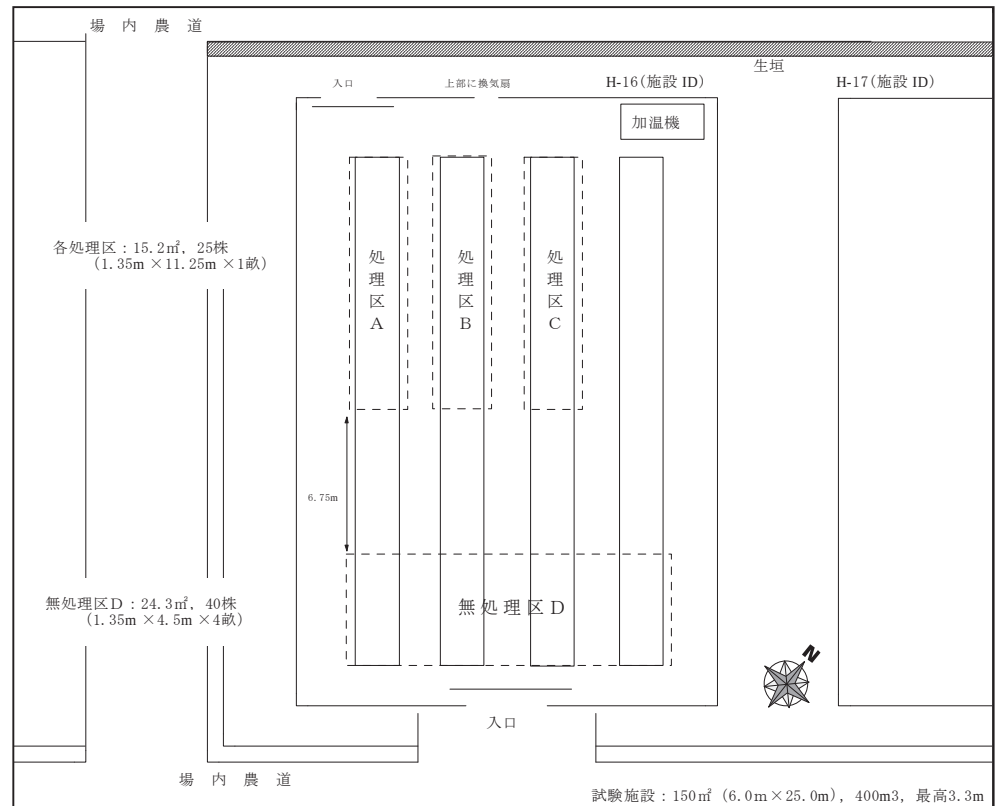
1 0. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A～C : 各15.2㎡ (25株) 無処理区D : 24.3㎡ (40株)

(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 150㎡ (6.0m×25.0m) , 400m³, 最高3.3m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。
イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。
ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は吸水口および排水溝を記入して下さい。



別紙. 過去 1 年間に作付けした作物及び使用した農薬および現作において被験物質以外に使用した農薬

処理区 A～C および無処理区 D 共通

作物	農薬名 (商品名または有効成分)	処理年	処理月	処理日	濃度又は処理量/処理方法
オクラ	アミスターフロアブル20	11	4	28	2000倍
	モレスタンVPシット	11	5	10	200g/400 m ³
	スミレックスくん煙顆粒	11	5	27	6g/100 m ³
	アフロートエースフロアブル	11	5	30	1000倍
	アフロートエースフロアブル	11	6	6	1000倍
裸地	D-D剤	11	8	2	30 $\frac{1}{2}$ g/10a, 全面土壌処理
ピーマン	ネマキック粒剤	11	10	14	20kg/10a, 全面土壌混和
	MCW-2 (MAI-08012) 粒剤	11	10	14	20kg/10a, 全面土壌混和
	カンタストライフロアブル	11	10	26	1000倍
	モレスタン水和剤	11	10	26	2000倍
	アファーム乳剤	11	10	26	2000倍
	スミレックスくん煙顆粒	11	11	15	24g/400 m ³
	イミシアホス (AKD-3088) 液剤	11	11	28	4000倍, 2000 $\frac{1}{2}$ g/10a灌注
	モスビランシット	11	11	28	50g/400 m ³
	スミレックスくん煙顆粒	11	12	5	24g/400 m ³
	スタークル粒剤1	11	12	6	1g/株, 株元処理
	アファーム乳剤	11	12	21	2000倍
	ダコニール1000	11	12	21	1000倍
メロン (現作・育苗期)	ジマンダイセン水和剤	12	4	13	500倍
	ジマンダイセン水和剤	12	4	23	600倍
	スミレックス水和剤	12	4	23	2000倍
メロン (現作・定植後)	モスビラン粒剤	12	4	23	定植前1g/株植混和处理
	モスビランシット	12	4	27	50g/400 m ³ くん煙
	モレスタン水和剤	12	5	2	3000倍
	アファーム乳剤	12	5	2	1000倍
	イオウフロアブル	12	5	21	1000倍
	ダントツ水溶剤	12	5	21	2000倍
	アファーム乳剤	12	5	21	1000倍
	ライメイフロアブル	12	5	21	2000倍
	モレスタン水和剤	12	6	2	3000倍
	ライメイフロアブル	12	6	2	2000倍
	スミレックス水和剤	12	6	2	1000倍
	アファーム乳剤	12	6	2	1000倍

1 1. 処理方法 (下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理月日	A区	B区	C区	D区				処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法(概略)
								10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
6月 5日	①			無処理				224 ^{リットル}	①5.00g/5.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.4ℓ ^{リットル} を散布した	ネット形成期	茎葉散布
			⑫					217 ^{リットル}	⑫8.00g/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		
6月 12日	①⑤							224 ^{リットル}	①5.00g⑤5.0ml/5.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.4ℓ ^{リットル} を散布した	生育期	茎葉散布
		⑥⑩			①:ペルケト水和剤 1000倍 ②:ホライズントライフフロアブル 2500倍 ③:フォリオコートフロアブル 800倍 ④:スピノエース顆粒水和剤 5000倍 ⑤:ランマンフロアブル 1000倍 ⑥:フルビカフロアブル 2000倍 ⑦:スコア顆粒水和剤 2000倍 ⑧:ホライズントライフフロアブル 2500倍 ⑨:ピラネカEW 2000倍 ⑩:マネジ DF 2000倍 ⑪:ハロックフロアブル 2000倍 ⑫:アテント水和剤 750倍 ⑬:タニサハフロアブル 1000倍 ⑭:ロティー乳剤 1000倍 ⑮:テルスター水和剤 1000倍 ⑯:カネイトフロアブル 1000倍			217 ^{リットル}	⑥3.0ml⑩3.00g/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		
			⑫⑭⑮					217 ^{リットル}	⑫8.00g⑭6.0ml⑮6.00g/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		
6月 19日	①②③⑤							224 ^{リットル}	①8.00g②3.20g③10.0ml⑤8.0ml/8.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.4ℓ ^{リットル} を散布した	生育期	茎葉散布
		⑥⑦⑧⑩						217 ^{リットル}	⑥3.0ml⑦3.00g⑧2.40g⑩3.00g/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		
			⑫⑭⑮					217 ^{リットル}	⑫8.00g⑭6.0ml⑮6.00g/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		
6月 26日	①②③④⑤							224 ^{リットル}	①8.00g②3.20g③10.0ml④1.60g⑤8.0ml/8.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.4ℓ ^{リットル} を散布した	生育期	茎葉散布
		⑥⑦⑧⑩						217 ^{リットル}	⑥3.0ml⑦3.00g⑧2.40g⑩3.00g/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		
			⑪⑫⑬⑭⑮					217 ^{リットル}	⑪3.0ml⑫8.00g⑬6.0ml⑭6.0ml⑮6.00g/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		
7月 2日	①②③④⑤							224 ^{リットル}	①8.00g②3.20g③10.0ml④1.60g⑤8.0ml/8.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.4ℓ ^{リットル} を散布した	収穫初期	茎葉散布
		⑥⑦⑧⑨⑩						217 ^{リットル}	⑥3.0ml⑦3.00g⑧2.40g⑨3.0ml⑩3.00g/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製 15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		
			⑪⑫⑬⑭⑮⑯					217 ^{リットル}	⑪3.0ml⑫8.00g⑬6.0ml⑭6.0ml⑮6.00g⑯6.0ml/6.0ℓ ^{リットル} 調製液を作製、15.2㎡に3.3ℓ ^{リットル} を散布した		

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度、土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する
6月 5日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A+丸山製 狭角コンノズル 茎葉散布		処理時刻 C区 AM6:50～,A区 AM7:23～ 天候:雨 無風 処理後の天気は雨
6月 12日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A+丸山製 狭角コンノズル 茎葉散布		処理時刻 A区 PM3:05～,B区 PM3:35～,C区 PM4:05～ 天候:曇り 無風 処理後の天気は曇り
6月 19日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A+丸山製 狭角コンノズル 茎葉散布		処理時刻 B区 AM7:34～,C区 AM8:03～,A区 AM8:55～ 天候:雨 無風 処理後の天気は雨～曇りのち晴れ
6月 26日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A+丸山製 狭角コンノズル 茎葉散布		処理時刻 A区 PM2:05～,B区 PM2:45～,C区 PM3:30～ 天候:曇り 無風 処理後の天気は雨時々曇り
7月 2日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A+丸山製 狭角コンノズル 茎葉散布		処理時刻 A区 PM1:40～,B区 PM2:15～,C区 PM2:35～ 天候:曇り 無風 処理後の天気は曇りのち雨

(1) 展着剤 ー 使用した区番号 展着剤名 濃度または量

(2) 備考

(24 ー作物グループ化・メロン)

試験場名 日植防宮崎試験場

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」に記入したものを記載する)

区 分 採取月日	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	D 区 試料番号				試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
7 月 3 日	A-1	B-1	C-1	D				AM8:19-8:26, 8:55-8:58, 8:59-9:01, 9:03-9:05 曇り	D→C→B→A	各区 5kg以上かつ5個 (無処理区は10個)	7 月 3 日
7 月 5 日	A-2	B-2	C-2					AM7:25-7:29, 7:31-7:35, 7:38-7:41 曇り	C→B→A	各区 5kg以上かつ5個	7 月 5 日
7 月 9 日	A-3	B-3	C-3					AM8:15-8:18, 8:22-8:26, 8:30-8:33 曇り	C→B→A	各区 5kg以上かつ5個	7 月 9 日

区 分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
7 月 3 日	1. 試料の大きさは (通常) 2. 熟期は (通常) 3. その他 () 4. 原因
7 月 5 日	1. 試料の大きさは (通常) 2. 熟期は (通常) 3. その他 () 4. 原因
7 月 9 日	1. 試料の大きさは (通常) 2. 熟期は (通常) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具 (機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥のための輸送方法を記載

試験区の境界部を除き、試験区全体から任意に試料を選び、採取専用のハサミで採取した。採取した試料は試験区毎にカゴに入れた。

(2) 採取後の調製・梱包方法

試料を試料調製室まで運び梱包した。試料を個別に包装紙で包み2重にしたポリ袋に入れ、エアキャップ (小) でくるんで包装資材を敷いたダンボール箱に入れた。上部は包装紙で覆い、その上と最下部にはエアキャップ (大) を入れた。箱の内側に試験区ラベルを外側に梱包シールを貼り付けした。なお、包装資材は未使用のものをを用い、試験区毎に別梱包とした。

(3) 試料送付先 分析場所：一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸株式会社ので、着日および冷蔵を指定し送付した。

(5) 備 考

(24 -作物グループ化・メロン)

試験場名 日植防宮崎試験場

気 象 表

観測地点および試料調製場所 観測地点：宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場内 当該試験施設 記号 ○：薬剤処理日

気温：平均気温 (1 時間毎) 降水量：日界 ー 時

△：試料採取日

(2 4 年) 測定時刻 ー 時

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6	気温 (施設内温度)					22.8	29.8	24.0	24.8	29.5	30.1	25.1	23.3	28.7	27.8	23.8	25.9	25.7	28.3	28.4	26.8	22.3	30.6	24.4	23.0	24.9	24.8	23.3	27.1	28.9	29.8	
	降 水 量																															
	薬剤処理/試料採取					○							○							○							○					
	区記号 (試料番号)					A,C							A,B,C							A,B,C							A,B,C					
7	気温 (施設内温度)	30.2	25.8	28.1	31.0	32.7	31.8	28.4	31.6	31.7																						
	降 水 量																															
	薬剤処理/試料採取		○	△		△				△																						
	区記号 (試料番号)		A,B,C	A,B,C,D		A,B,C				A,B,C																						
4月2																																

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。なお施設試験の場合は該当する記号を「施設内温度」欄へ、露地試験の場合には「気温」欄へそれぞれ記入する。

また、薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (送付カードと同様の番号) を当該欄へ記入する。

観測機器 気温：T&DおんどとりTR-71Ui